南極周回気球による電子加速源の探索

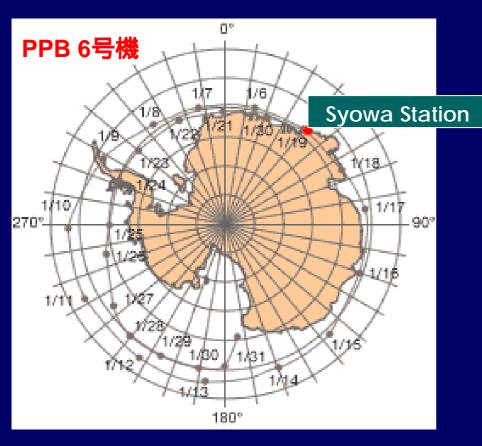
神奈川大学 田村忠久



昭和基地におけるPPB (Polar Patrol Balloon)の例

放球 : 1993年1月 5日 8時55分 (UT)

最終 : 1993年1月31日 22時45分





PPB-BETSの足跡

- ◆ 2000年3月 南極地域観測第∀期5ヶ年計画:第2次PPB実験計画公募 宇宙物理学的観測の分野でPPB-BETSが採択される
- 2000年 PPB-BETS検出装置の製作開始
- 2001年 テスト用トリガーシステムの製作
- 2001年8月 三陸でのトリガーシステムのテストフライト
- 2001年 PPB-BETS検出装置の調整
- 2001年10月 CERNでの電子・陽子ビーム照射実験
- 2002年 環境試験、調整、キャリブレーション
- 2002年12月 第44次隊 昭和基地での放球、装置浮上せず、回収
- 2003年 熱対策強化、充電システム改良、環境試験
- 2004年1月 第45次隊 昭和基地から放球

高エネルギー一次宇宙線生成機構の解明

南極地域観測第V期5ヶ年計画 第2次PPB実験計画の宇宙物理学的観測

南極周回気球 PPB 7号機

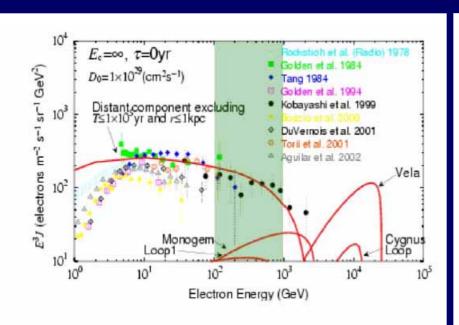
研究者代表 神奈川大 鳥居祥二

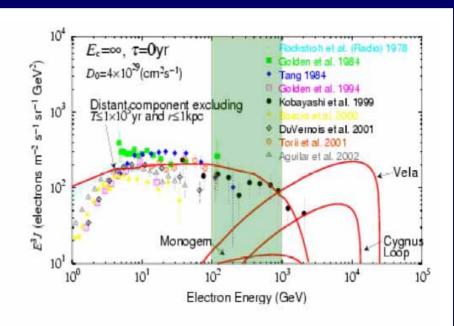
田村忠久、立山暢人、吉田健二、安楽和明、山下太郎、西村 純、山上隆正、斎藤芳隆、太田茂雄、並木道義、松坂幸彦、山岸久雄、門倉 昭、笠原克昌、小河哲之、藤井 森、柴田槇雄、片寄祐作、井上 武、北村 尚、村上浩之、小林 正、古森良志子、水谷興平、平井勇佑、常 進

神奈川大学、宇宙科学研究本部、国立極地研、 芝浦工業大学、横浜国立大学、 放射線医学総合研究所、立教大学、 青山学院大学、神奈川県立保健福祉大学、 埼玉大学、紫金山天文台

PPB-BETSの観測目的

- 近傍加速源の同定 エネルギースペクトルと到来方向異方性
- 銀河内での宇宙線の拡散係数の決定



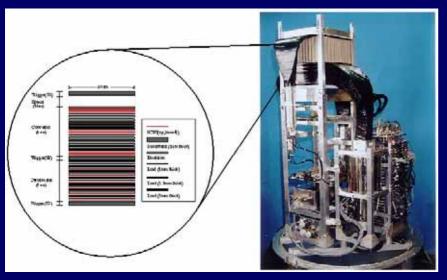


(Kobayashi et al. ApJ (2004))

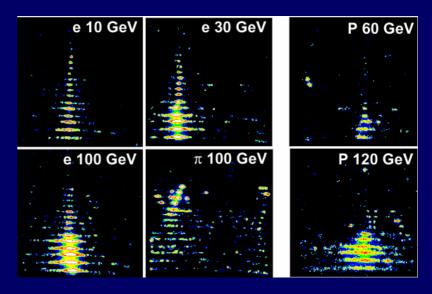
BETSによる電子・ガンマ線観測

BETS: Balloon-borne Electron Telescope with Scintillating fibers

- 電子観測のためのSciFi / Lead イメージング・カロリメータの開発 NIM 457, 499-508 (2001)
- 三陸における電子観測 10 ~ 100 GeV ApJ 559, 973-984 (2001)
- BETSの改良による大気ガンマ線強度観測 Phys Rev D 66, 052004(1-9) (2002)





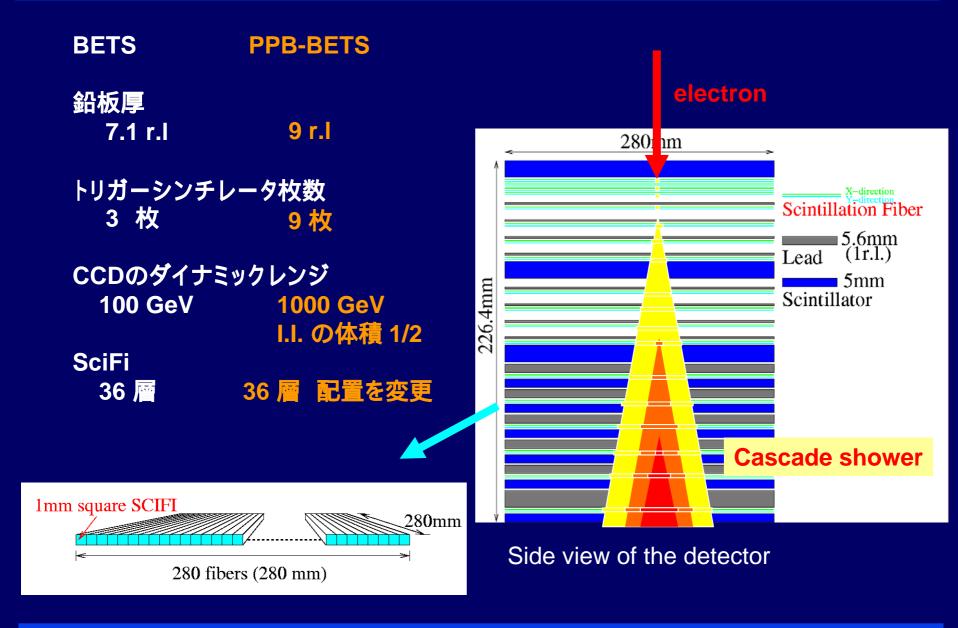


CERNビーム実験によるシャワー画像例

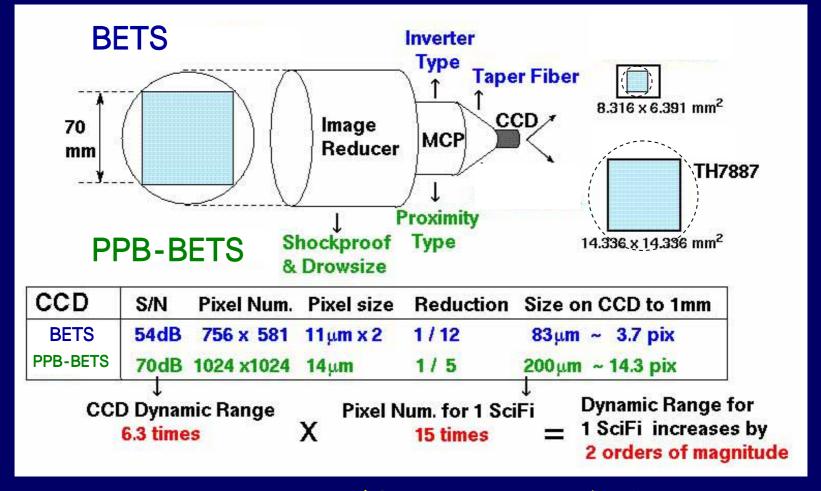
BETS から PPB-BETS へ

BETS	PPB-BETS
10 ~ 100 GeV	10 GeV ~ 1 TeV
三陸ブーメラン	南極周回
4.5時間(1997)	30日間
8.3時間(1998)	
100 ~ 150 kg	240 kg
コマンドコントロール	オートレベルコントロール
380 kg	200 kg
耐圧容器	部分的に耐圧容器、熱対策、放電対策
リチウム電池	太陽電池 + 充電池
テレメトリ(32 kbps)	テレメトリ(64 kbps)
磁気テープ(5 GB)	イリジウム衛星電話(2.4 kbps)
	シリコンディスク(1 GB)
海上回収	昭和基地に戻ってきたときのみ
	10~100 GeV 三陸ブーメラン 4.5時間(1997) 8.3時間(1998) 100~150 kg コマンドコントロール 380 kg 耐圧容器 リチウム電池 テレメトリ(32 kbps) 磁気テープ(5 GB)

PPB-BETSイメージングカロリメータ

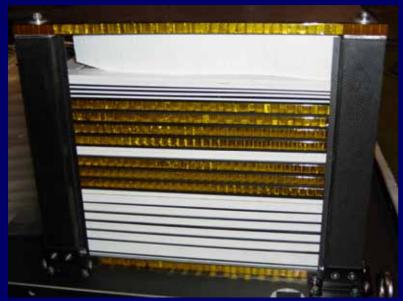


BETS から PPB-BETS への II-CCD の改良



BETSに比べると、ファイバ当たりのCCD画素が15倍、 S/Nが6倍、合わせて100倍のダイナミックレンジを得られた。 体積は半分になった。

PPB-BETS SciFi/Lead 検出器







シンチファイバーベルト

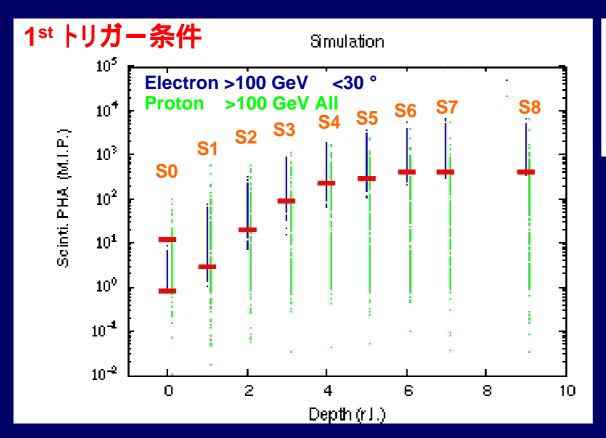


ファイバー読み出し型トリガーシンチレータ

高エネルギートリガー

100GeV以上の高エネルギーイベントをイリジウム(2.4kbps)で転送するために...

1st トリガー: エネルギー閾値



2nd トリガー:シャワーカーブ

2ndトリガー条件

S0/S2 < 0.15 S4/S6 < 0.80 S1/S3 < 0.25 S6/S8 < 1.50 S2/S4 < 0.40

検出効率(1st & 2nd) の シミュレーション

Electron (100GeV) 86.3 % Proton (>100GeV) 0.67 % He 0.53 % Carbon 0.51 %

トリガーシステムの三陸におけるテストフライト







目的

データ転送レートが限られるため、 トリガーシステムをアップグレードした 全データ転送が可能なことを検証

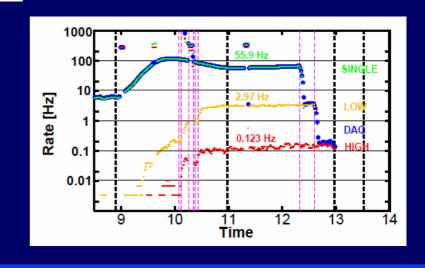
- ·BETSから推定されるPPB-BETSの トリガーレート 0.04 Hz(>100GeV)
- ·2ndトリガー(シャワーカーブ判定)で 0.02 Hz にする
- ・推定を超えるとイリジウム電話の転送レート2kbpsに収まらない

放球日 2001年9月3日8時54分

気球 B50-47 観測器 308 kg バラスト 126 kg

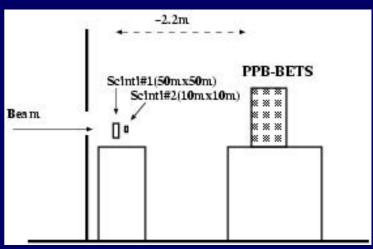
レベル 32 km (2時間)

回収 ヘリコプター



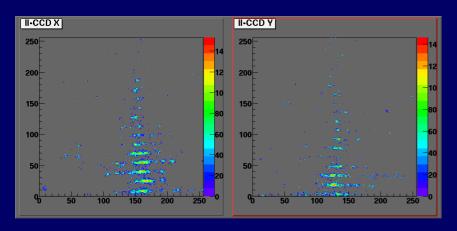
CERN-SPSにおける電子・陽子ピーム実験



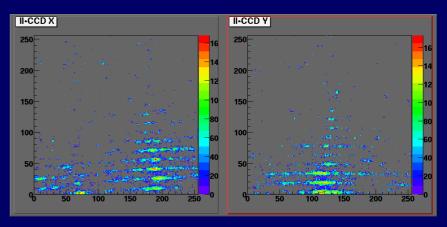




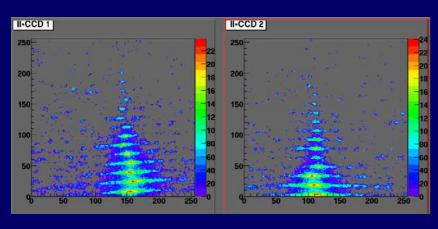
ビーム実験結果: CCD画像例



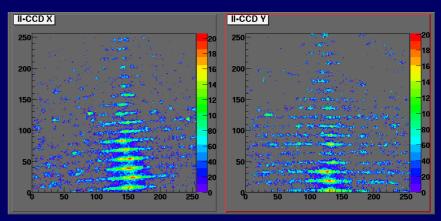
50 GeV electron



150 GeV proton

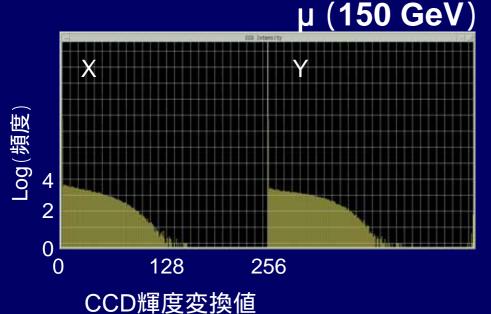


200 GeV electron

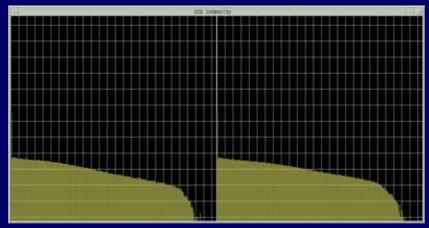


350 GeV proton

ビーム実験結果: CCD画像輝度分布



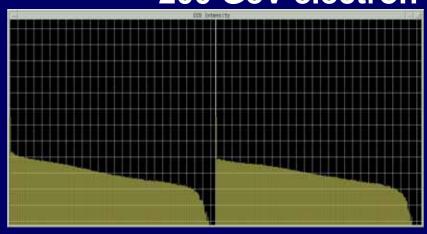
100 GeV electron



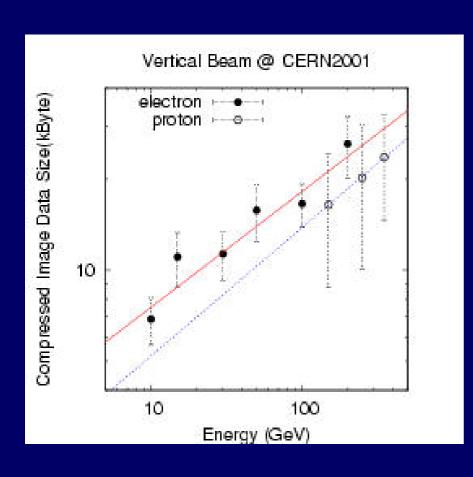
CCD輝度∶16 bits

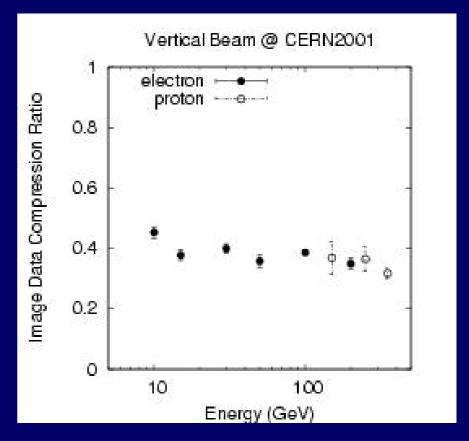
LOG变換:16 bits 8 bits 圧縮:Zero-Length, Hafman

200 GeV electron

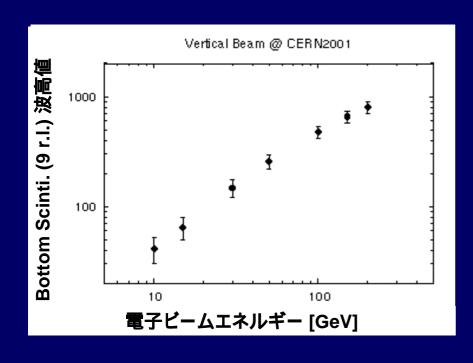


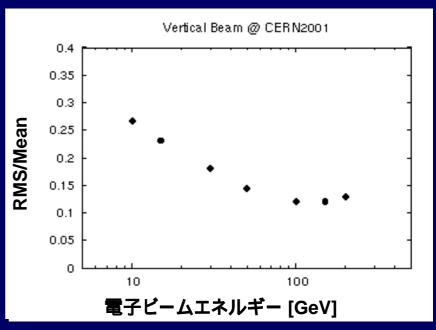
ビーム実験結果: 画像データ量





ビーム実験結果: エネルギー分解能

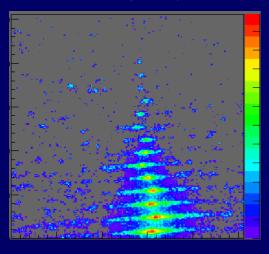




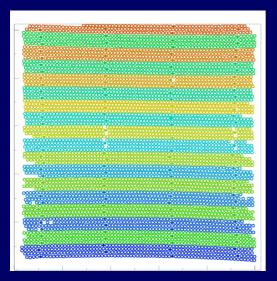
エネルギー分解能 ~ 12%@100GeV

シャワー再構成、画像解析

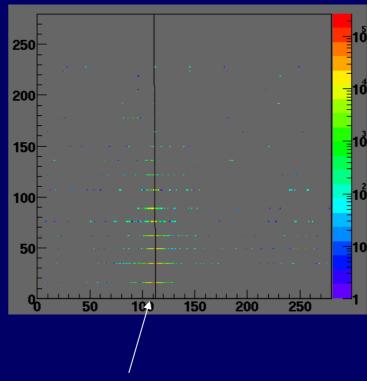
CCD イメージ



μデータで求めたSciFi位置



再構成シャワー画像

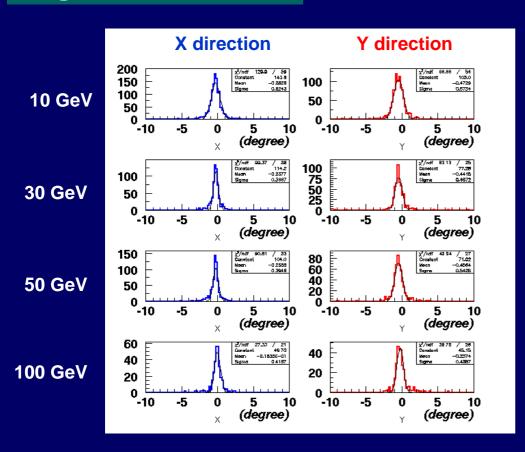


フィッティングで得られたシャワー軸



ビーム実験結果:角度分解能

Angular Resolution

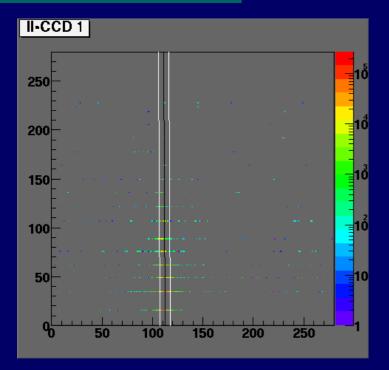


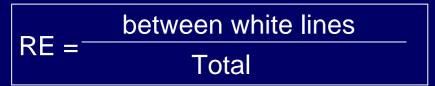
Distributions of shower axis for vertical electron beams with different energies.

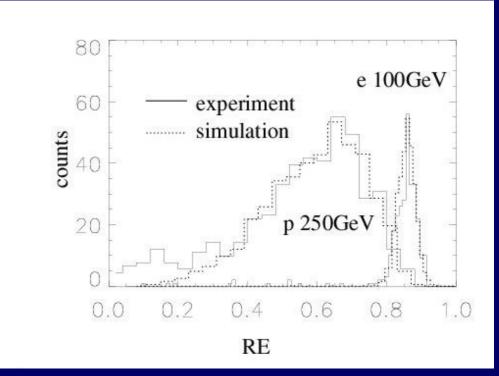
The resolution is <0.6 degree for vertical electron beams with energy from 10 GeV to 200 GeV. It will be improved by correction of SciFi positions.

電子·陽子選別

Energy Concentration







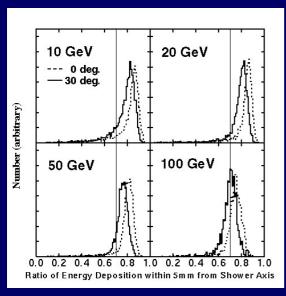
RE distributions of vertical beam. (normalized by number of events)

The REs for electrons concentrate around **0.85**, but those for protons distribute widely.

ビーム実験結果: 電子・陽子選別

Energy Concentration

BETS

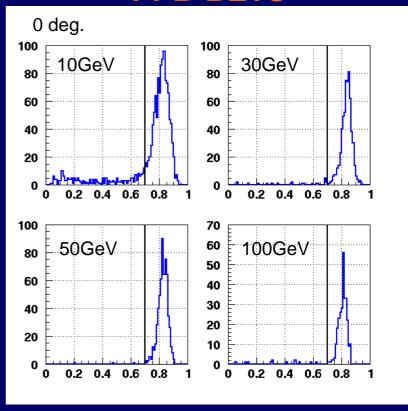


Improve

RE distribution with different energy beam for BETS-2. The peaks shifted to left as beam energies increased.

Saturations of CCD?

PPB-BETS



For PPB-BETS, the shifts of peaks disappeared because of improvement of I.I and CCD system.

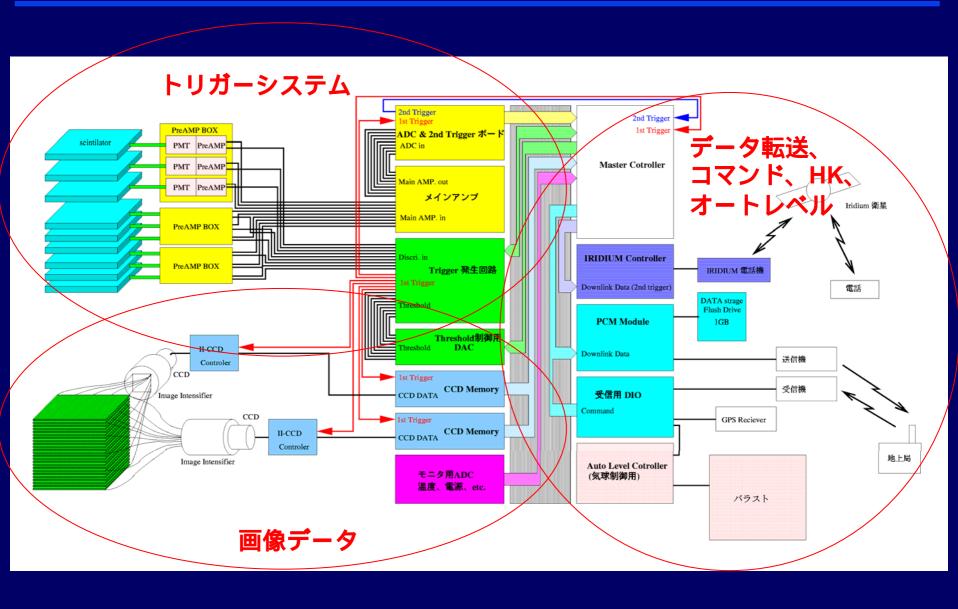
PPB-BETSの基本性能

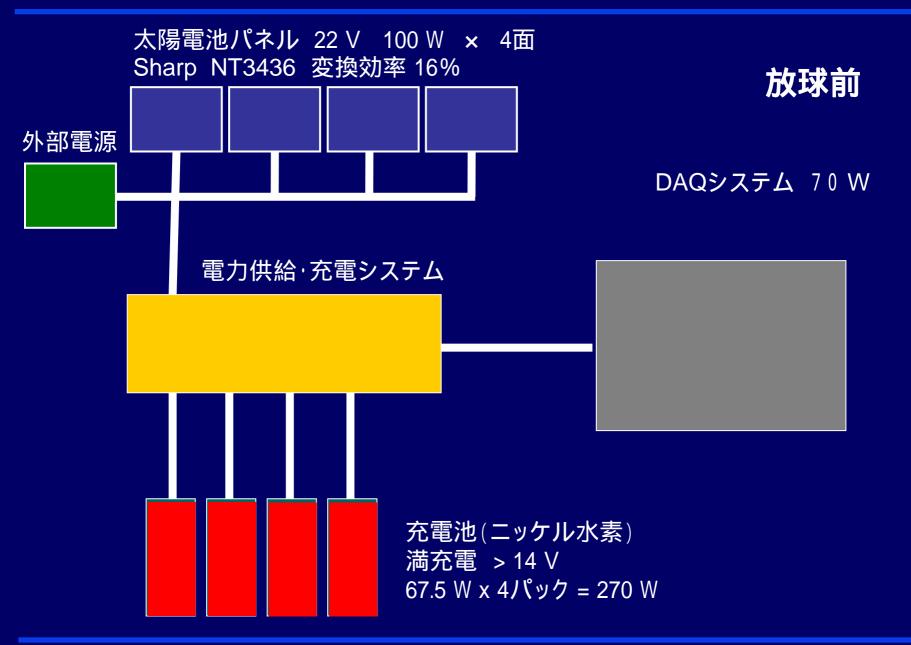
Detector Weight (Total Weight including being Power Consumption Observation Altitude Data Transfer Rate	200 kg pallast for 30 days 70 W ~35 km 2.4 kbps (64 kbps	including un-pressurized gondola 500 kg) supplied by solar batteries controlled by auto-level system by the Iridium telephone line by the telemetry to the stations)
Energy Range	10 ~1000 GeV	by two modes of trigger
Geometrical Factor	550~600 cm ² sr	by simulation (> 100 GeV)
Energy Resolution	12~ 16 %	by plastic scintillators
Angular Resolution	0.35~ 0.6 °	by shower image of SciFis

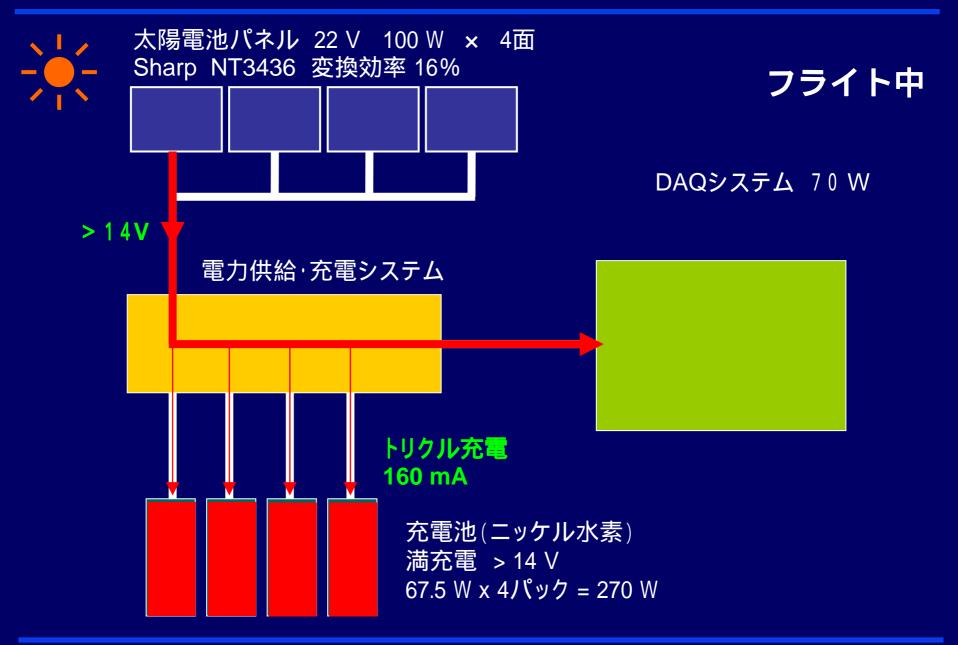
荷出し直前のPPB-BETS 観測装置

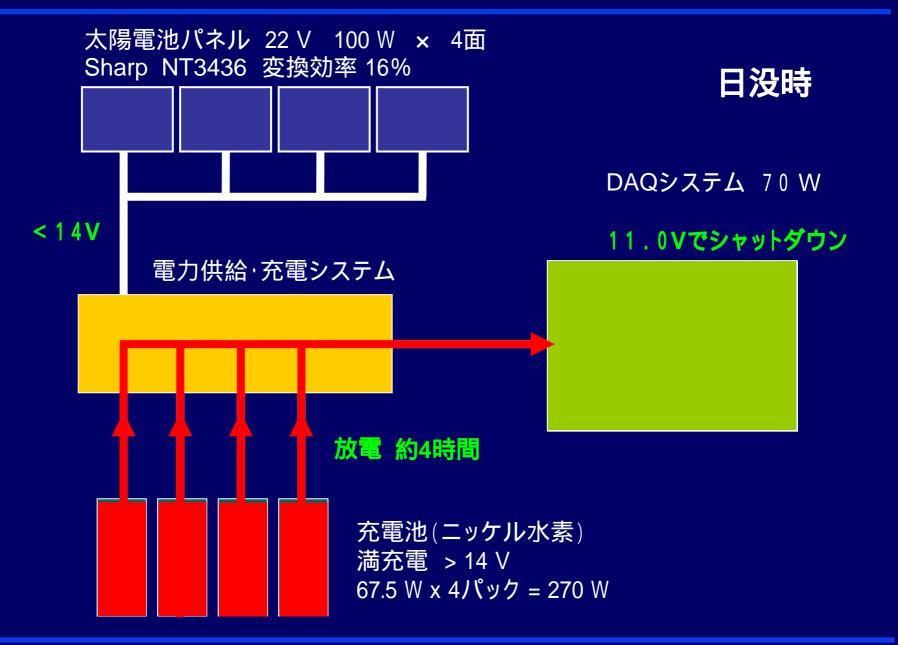


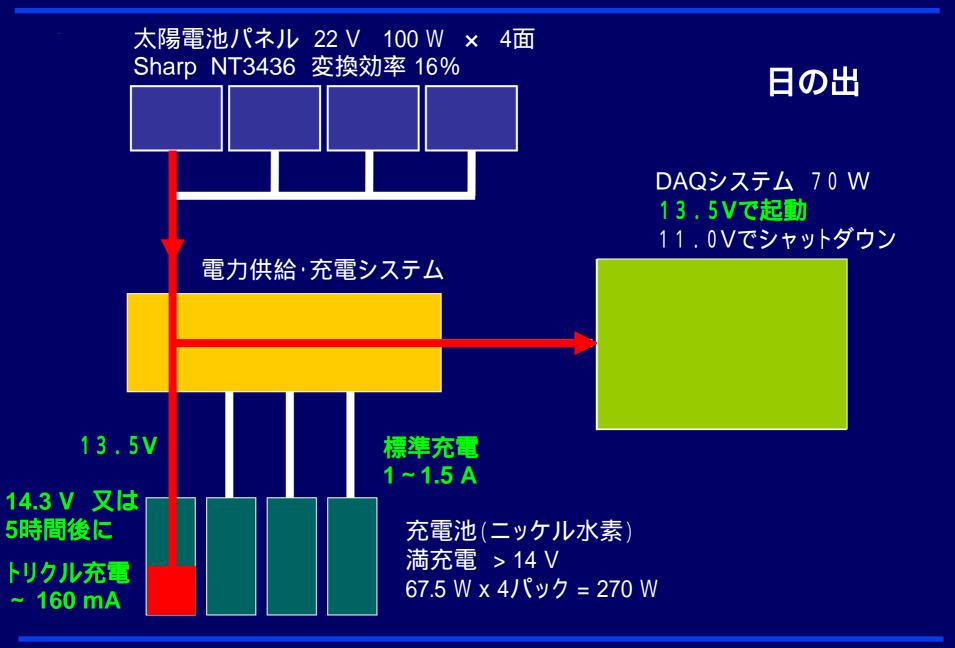
データ収集系ブロック図



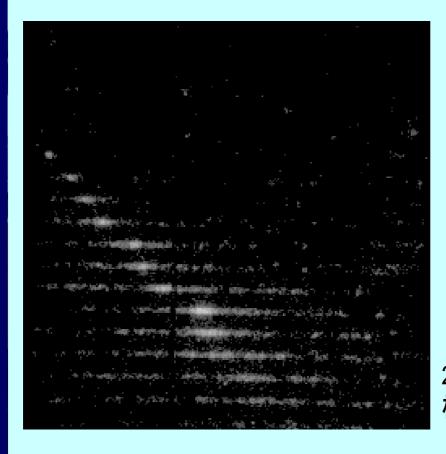








昭和基地 2002年(第44次隊)



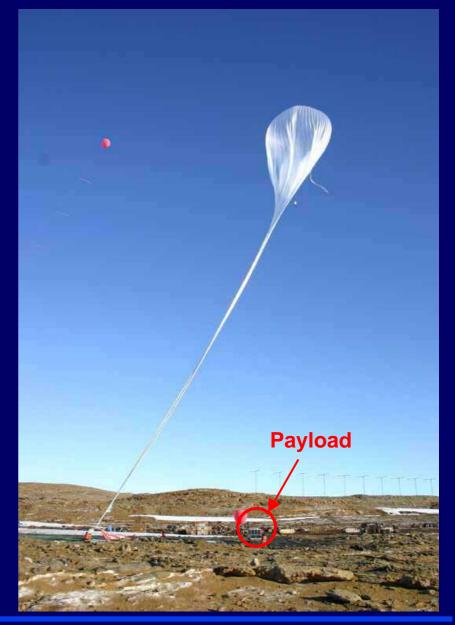
衛星電話で転送された 昭和基地で得られた シャワー画像の例

2002年12月30日放球 検出器浮上せず、回収

PPB-BETS 放球 2004年1月5日(第45次隊)



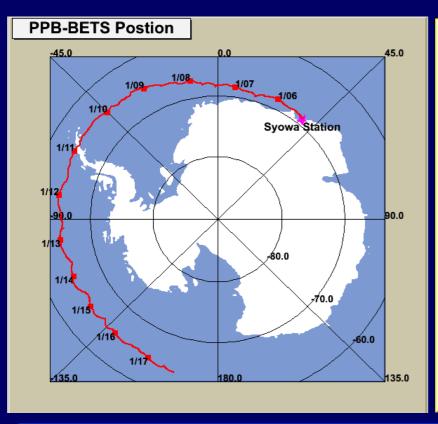


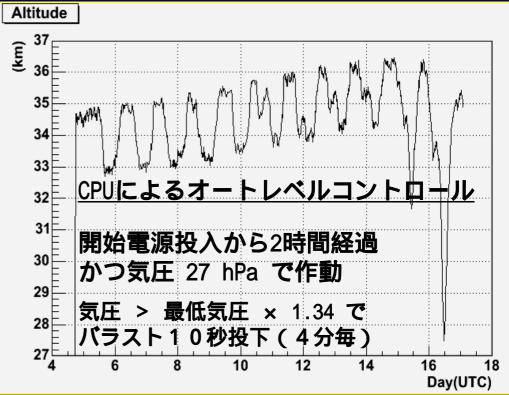


PPB-BETS 2004 フライト

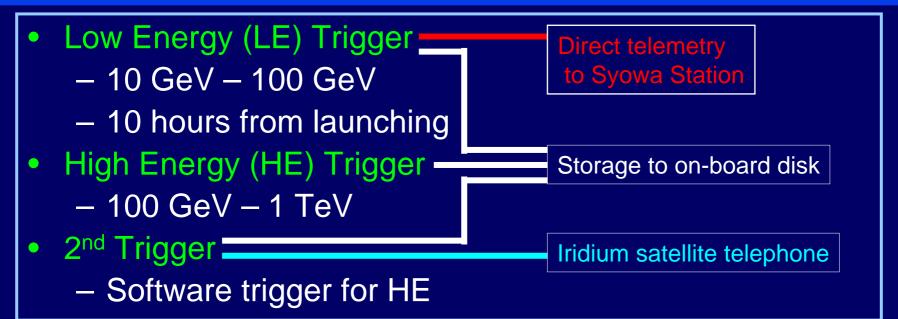
- 昭和基地より2004年1月4日放球
- 現地時間 18時57分 (日本時間 5日0時57分)
- 放球時 地上風 4 m/s (瞬間風速 6 m/s)
- 平均水平浮遊高度 34.6 km (7.3 g/cm²)
- 1月4日から17日までの13日間のフライト

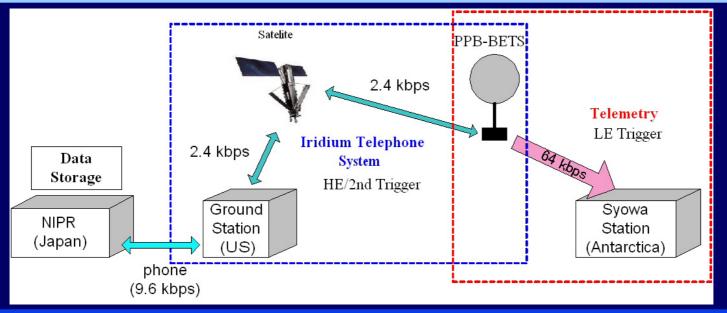
HE ~ 5700イベント LE ~ 22000イベント





トリガーシステムとデータ転送システム





イリジウム衛星電話によるデータ転送システム

イリジウム衛星電話 2.4 kbps

- 1)画像データ5ファイル
- 2)コマンド送信
- 3) HKデータ 1ファイル (254 byte)
- ・データ転送 1ファイル = 1 イベント エラー確認、再転送



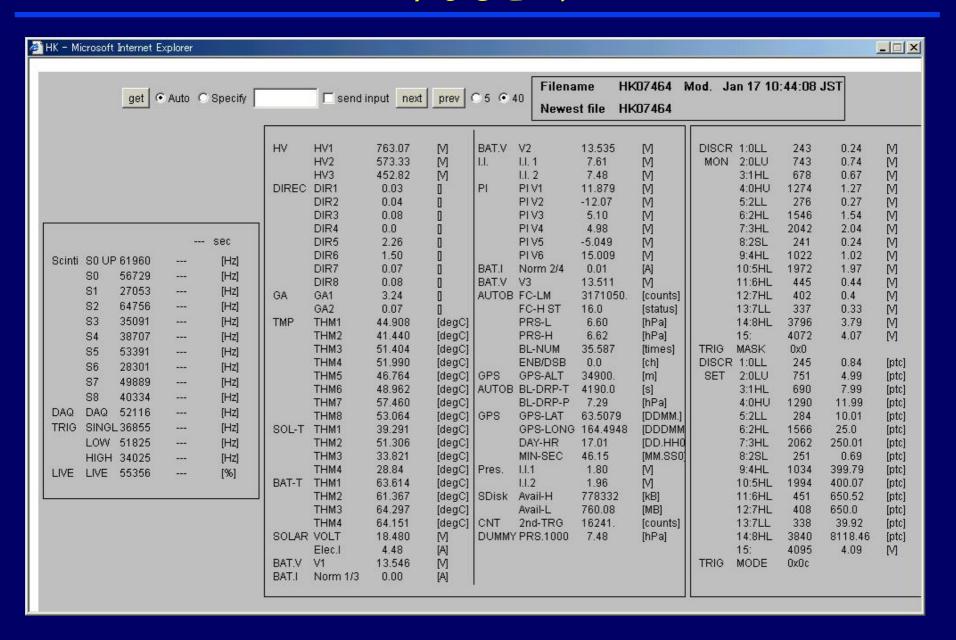
イリジウム:66衛星 (6軌道面×11衛星)

コマンド
 1stトリガーのディスクリ値 14ch (HE 9, LE 3, SINGLE 2)
 Page 1~8 (予め設定値を用意)
 個別チャンネル設定
 ディスクリ14chのマスク設定
 トリガーモード (HE, LE, SINGLE, LED)
 2ndトリガーの設定・解除
 (I.I.ゲイン変更)
 (テレメトリモード切替え)



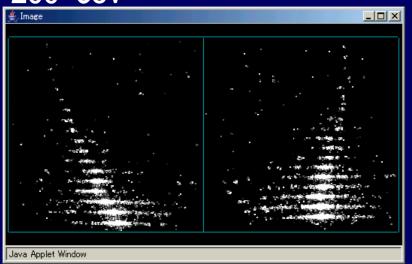
Motorola 9505 : 7W

WEBによるモニター



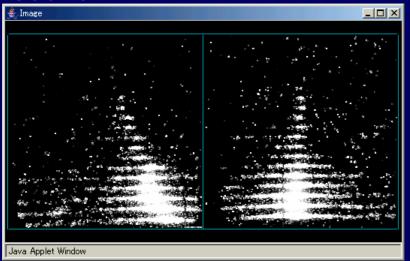
電子と思われるシャワー画像例

200 GeV





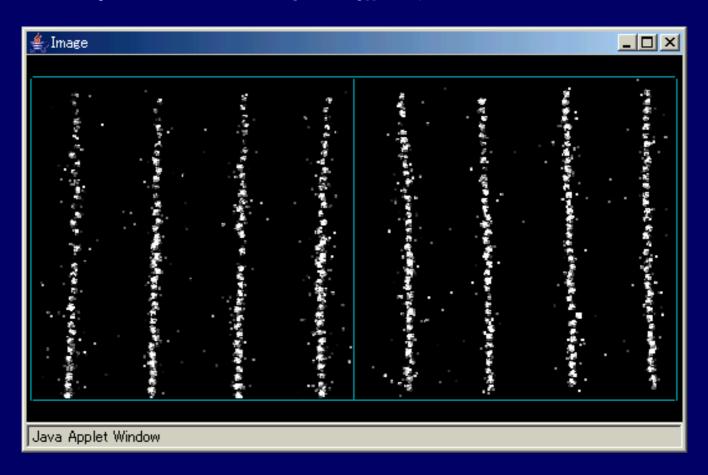
600 GeV





LED画像データ

タイマーによるトリガーで約1時間に1回LED画像を取得 LEDで144本のクリアファイバーを光らせる フライト中のファイバー位置補正用



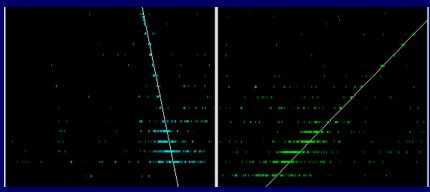
CCD画像から検出器でのSciFi配置へ再構成

CCD画像

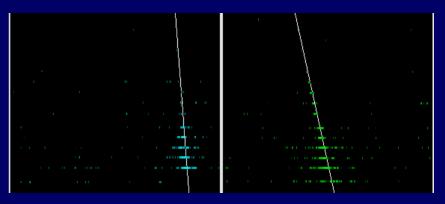


SciFi に対応する点

電子候補

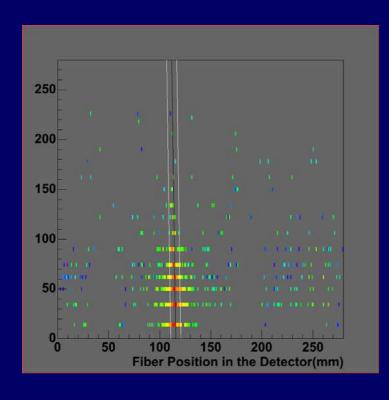


陽子候補

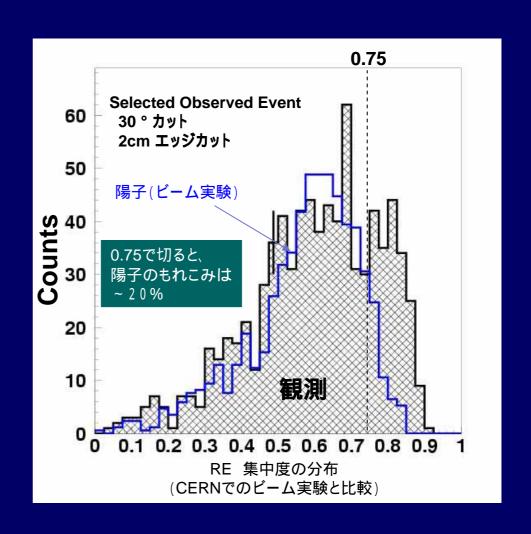


ガンマ線候補

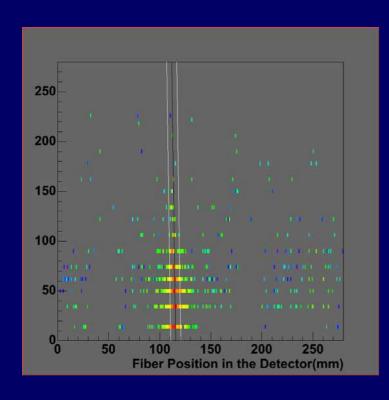
電子・ガンマ線と陽子の弁別



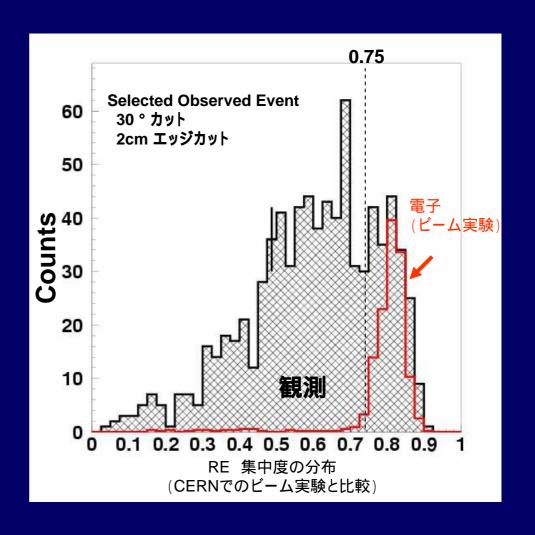
集中度= 白線に囲まれた部分の輝度 全輝度



電子・ガンマ線と陽子の弁別

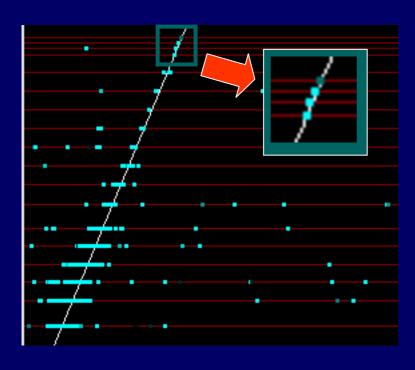


集中度= 白線に囲まれた部分の輝度 全輝度

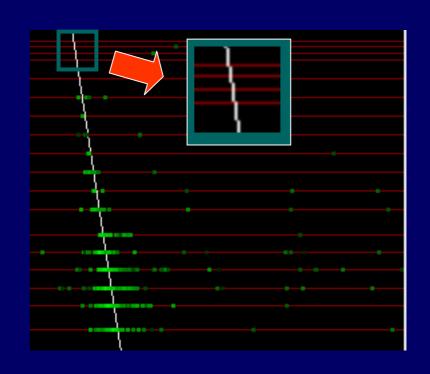


電子・ガンマ 選別

シャワー上部 (0 r.l.) でシャワー軸上に SCIFIにヒットしているか

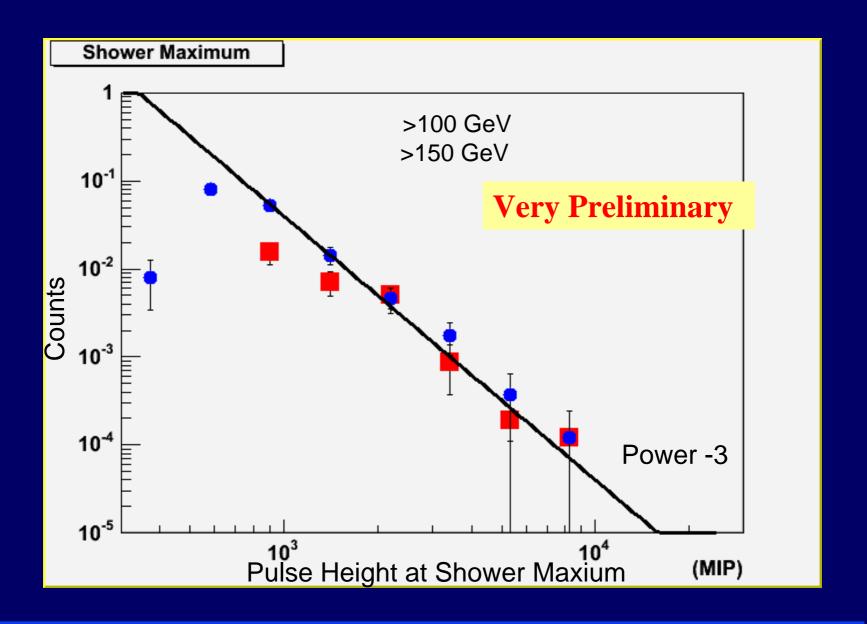


電子候補



ガンマ線候補

Preliminary Results



まとめ

- 南極周回気球によってPPB-BETS (PPB-7号機)は13日間の観測を実現した。 これは三陸でのBETSによる観測時間合計の10倍以上の長時間観測である。
- 取得されたデータは、エネルギー10GeV以上で22000イベント、100GeV以上で5700イベントとなった。このうち100GeV以上の電子の期待数は100例程度で、これは三陸でのBETSによる観測数の数十倍である。
- 現在、取得データの半分ほどを解析し、100GeV以上でほぼ予測される数の電子を検出している。残りのデータも解析を続けている。
- 第2次PPB実験のためにイリジウム衛星電話によるデータ転送、コマンド送受信のシステムが開発され、気球観測の通信技術の革新となった。
- 太陽電池 + 充電池による電力供給システムが確立され、安定した長期間気球 観測への対応が可能となった。
- オートバラストシステムによって高高度でのレベルフライトが可能になった。
- 極地研と宇宙研の共同プロジェクトによって、大型観測装置による長時間気 球観測の道が開かれた。特に44次および45次の隊員の皆さんの厳しい現地で の活躍が貴重なデータの取得に結びついた。
- さらなる長期間観測(~100日間)を目指したスーパープレッシャー気球などの気球技術の発展に期待。